事務事業評価シート

No.	事務事業名	所管部課
16	文化芸術振興事業（対話による美術鑑賞）	生活文化スポーツ部文化振興課

事務事業の概要

事務事業の目的

本事業の実施により、西東京市文化芸術振興計画に位置付けた「子供達の参加の機会の充実」、「文化芸術を支える人材の育成と仕組みづくり」等の施策を推進し、子供たちの観察力、思考力、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、文化芸術活動を支える市民ボランティアを育成することを目的とする。

根拠法令等

- ☐ 法律
- ☐ 条例・規則
- ☐ 政令・省令
- ☐ 要綱・要領

事業の概要

「対話による美術鑑賞」は、鑑賞コミュニケーターを進行役として、知識に頼らず、グループで作品をよくみることからはじめ、対話を通じて、一人ひとりに考えることを促し、様々な意見を引き出しながら作品の見方を深めていく鑑賞方法である。

・市内小学校において、授業の一環として実施する他、市内外のイベント、中学校・高等学校、高齢者施設等において事業を実施している。

・小学校における「対話による美術鑑賞」は教室内で実施するものと借上げバスにより美術館を訪問して実施するものがある。

・「対話による美術鑑賞」の進行役である鑑賞コミュニケーターは専門的なノウハウを持った事業者が実施する養成研修を受講した市民ボランティアが担っている。

見直しの経過

・平成25年度から事業着手し、平成26年度に小学校における「対話による美術鑑賞」事業を開始。平成26年度8校、27年度14校と実施規模を拡大してきた。

・平成28年度には、市内小学校全18校において事業を実施するとともに、今後の事業展開も見据え、新たな鑑賞コミュニケーターの養成に向けて、市民ボランティアの募集を行った。

・平成29年度は小学校での事業実施を9校（2ヵ年で全校実施）とし、新たな事業展開として、市内外のイベント、中学校・高等学校、高齢者施設等において計8回の鑑賞事業を実施した。

事業開始時期	平成25年度	実施形態	☑ 直営 ☑ 委託 ☐ 補助 ☐ その他 （ ）

事業費データ

項　目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費(A)	千円	5,118	5,539	2,389	2,292
財源内訳 国庫支出金・都支出金	千円				
財源内訳 地方債	千円				
財源内訳 その他 （ 文化芸術振興基金 ）	千円	0	0	2,389	2,292
財源内訳 一般財源	千円	5,118	5,539	0	0
所要人員(B)	人	0.26	0.26	0.26	0.26
人件費(C)=平均給与×(B)	千円	1,987	1,939	1,992	2,059
臨時職員賃金等(C')	千円	0	0	0	0
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円	7,105	7,478	4,381	4,351
単位当たりコスト (E)=(D)/ （ 実施回数 ）	千円	508	415	258	－

評価指標

指標名		単位	27年度	28年度	29年度	30年度
①実施回数	実績値	回	14	18	17	
②市民ボランティア登録者数	実績値	人	25	44	42	

《指標とした数値変化に対する要因分析など》
①平成28年度までは小学校での実施を拡充、平成29年度は新たな事業展開により実施回数が減少した。
②平成28年度は市民ボランティア3期生を募集、養成研修を実施したことにより登録者数が増加した。

事業環境等

項目		内容
市民・関連団体等の意見（アンケート結果など）		平成29年度実施9校の校長・担任・図工専科等教員対象のアンケート結果。 ※9校中8校の37人が回答 ・実施内容は全体的に満足か？　→　とても満足：86％ ・来年度も実施したいと思うか？　→　そう思う：92％
他団体のサービス水準との比較（平均値との比較、本市の順位など）	☑ 上 ☐ 中 ☐ 下	美術館を持たない自治体では、神奈川県大和市が全国で初めて導入し、本市は全国で2例目である。その他、平成21年度から新宿区で区立小中学校の美術鑑賞教育を実施、平成26年度から杉並区で「対話による美術鑑賞」活動を「土曜授業」として実施している。
代替・類似サービスの有無	☐ 有 ☑ 無	

【一次評価】

検証項目	判定	判定理由
事業の優先度（緊急性）	普通	文化芸術の振興に向けて、継続して実施することが望ましい。
事業の必要性	普通	市内の文化芸術振興に寄与する事業である。
実施主体の妥当性	課題有	市民ボランティア主体の事業運営について検討を行っている。
事業（補助）の対象	課題有	引き続き、実施対象の拡大に向けて検討を行っている。
事業（補助）の内容	課題有	より効果的な事業実施について検討を行っている。
受益者負担	課題有	市民ボランティア主体の自主運営に向けた検討が必要である。
事業コスト	普通	委託料は低コストだが、機材運搬等、市職員が担う部分がある。
業務負担	多い	学校との調整や機材運搬等の負担がある。

一次評価	今後の実施に向けた方向性
☐ 継続実施 ☐ 改善・見直し ☑ 抜本的見直し ☐ 廃止	今後、市民ボランティアが主体となり、対象を小学校に限定せず、内容も実施先の希望に添えるよう、事業の幅を広げて実施できるよう検討を行っている。

【二次評価】

検証項目	判定	判定理由
事業の優先度（緊急性）	普通	文化芸術の振興に向けて、継続して実施することが望ましい。
事業の必要性	普通	市内の文化芸術振興に寄与する事業である。
実施主体の妥当性	課題有	市民ボランティアを中心とした運営体制に移行することが望ましい。
事業（補助）の対象	課題有	広く市民を対象とした事業展開が望ましい。
事業（補助）の内容	課題有	市内小学校における事業の実施について、十分な調整が必要である。
受益者負担	課題有	授業以外での実施に当たっては参加費等の徴収も検討する必要がある。
事業コスト	高い	職員人件費も考慮すると、さらなる効率化が必要と考える。
業務負担	多い	運営体制の見直しと併せて、職員の業務負担の軽減を検討する必要がある。

二次評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題、今後改善すべき点等
☐ 継続実施 ☐ 改善・見直し ☑ 抜本的見直し ☐ 廃止	「対話による美術鑑賞」事業は、身近に美術作品にふれることのできる事業として、市民ボランティアを活用し、効果的な事業展開が図られている。しかしながら、学校との実施日程の調整や事業実施に伴う機材の運搬など、市職員の業務負担も多いことから、業務委託を含む現在の事業運営体制について、抜本的な見直しが必要と考える。

【外部評価】

外部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
☐ 継続実施 ☐ 改善・見直し ☐ 抜本的見直し ☐ 廃止	

【行革本部評価】

行革本部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
☐ 継続実施 ☐ 改善・見直し ☐ 抜本的見直し ☐ 廃止	

【改善の方向性・スケジュールと改善実施にあたっての課題】

改善の方向性・スケジュール	